



4月～毎木曜午前、循環器内科診療開始…

血液の検査で
心臓のことが分かる？

わが国を始めとして、先進諸国だけでなく発展途上国でも太りすぎが社会問題になっています。その理由は、太ると糖尿病や高血圧になって、ゆくゆくは心臓病や脳卒中が増加するために医療費が増大するからです。その背景には、栄養状態の改善と高度の医療に支えられて人々の寿命が伸びているために高齢者が増加して、その他の病気の伸びとくらべて動脈硬化による病気の頻度が高まっているためでしょう。すなわち、人生50年であれば、心筋梗塞や脳卒中の心配は皆無に等しかったでしょうが、80歳を超せば自ずとそれらの病気になる確率が高まるのは明らかです。

ただ単に長生きしてもしかたがなく、健康で長寿を全うしたいものです。新聞の死亡覧で、病名に「心不全」というのが多いことにお気づきでしょうが、動脈硬化のなれの果てが心不全で、これでお亡くなりになる方が増えています。その早期の診断のために注目を集めているのは超音波検査、心電図、CTやMRIなどのような大げさな検査ではなく、普通の血液検査なのです。



歳をとるとたいいていの人がかかる高血圧では、心臓は大きくなって、その働きが徐々に悪くなり、最後には心不全に至ります。私たちの体には様々なセンサー（受容体）があって、心不全になるまでに、その変化を感知して、主として心臓を守るために増えるものがあります。その増えるものを検査として測れば、心臓の働きぐあいを知ることができます。

その代表的な検査がNT-proBNPです。心臓が負担に感じた際に、自分を楽にしようとして心臓自体からホルモンとして放出するものです。血管を拡張して血液の流れを良くし、体に溜まる塩分と水分を外に出す役割を発揮します。心臓を苦しめる交感神経という自律神経の活性も抑制してくれますので、心臓はホッと息をつく

ことができます。血圧が高いだけでも心臓には負担になりますので、NT-proBNPは、わずかですが高くなります。心筋梗塞、心臓弁膜症や不整脈があると、これは大変なことです。心臓はこのホルモンを大量に創り出して血液中に流し、楽になろうとします。特に、心不全になれば、血液中のNT-proBNP濃度は健康な人に比べて10倍～1000倍にもなります。もうお分かりでしょうが、NT-proBNPが正常な基準範囲内にあれば安心ですし、高い場合には心臓を楽にするような補助療法としてお薬の世話になることとなります。心不全の症状は、運動した際の息切れ、足のむくみや横になった際の息苦しさなどですが、それは進行して初めて感じるもので、初期には症状がありません。その症状がない初期でもNT-proBNPは高くなります。当院では、このような検査をして皆様の健康状態を正確に評価しながら治療に当たります。どうぞよろしく願いいたします。

循環器内科 高橋 伯夫

〔 内科認定医、循環器専門医、高血圧専門医
腎臓専門医・指導医、内分泌代謝専門医 〕

新年度がスタート

★★★新入職員 37名★★★

4月2日(月)、平成24年度新入職員辞令交付式を行いました。今年度、当院には看護師・看護助手・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ助手・社会福祉士 合計37名の職員が入職し、坂口院長より、入職者一人ひとりに辞令が手渡されました。坂口院長からの激励の言葉の後、新入職員代表者が「初心忘れることなく、一日も早く社会のお役に立てる医療人となれますよう、謙虚な気持ちで日々努力することを、ここに誓います。」と宣誓を述べました。



インフルエンザ流行のため延期になりました『いきいき健康教室』の開催が、6月9日(土)に決定しました。ご期待下さい！！